

女性研究者技術者委員会ニュース

No. 26 2013年5月30日

連絡先：日本科学者会議全国事務局 Tel：03-3812-1472、Fax:03-3813-2363
e-mail: zenkoku@jsa.gr.jp ホームページ<http://www.jsa-t.jp/woman/index.html>

目次

1. 第47期 第2回女性研究者技術者委員会報告
2. 朴木さんの論文の合評（「日本の科学者」2013年2月号54ページ）感想
3. その他 連絡
4. 20 総学議題募集

1. 第47期第2回女性委員会議事録

1. 日時 2013年4月7日 13:30～17:00
2. 場所 日本科学者会議京都支部事務所
3. 出席（敬称略） 沢山（委員長）、石渡（副委員長）、朴木、金子、中村、上野（学術体制部長）
4. 議題
 - ① 年間総括 （第47期後半～第48期前半）
 - *19 総学分科会、19 総学女性交流会 ニュース No25 の通り
 - *学術体制部に報告済み（石渡）
 - *決算 今年約2万円の黒字 来年度は節約必要。
 - ② 活動方針 （第48期後半から第49期前半くらいまでの中心課題）
 - *次期シンポについて（時期、場所、テーマなど）検討する。
 - *20 総学について（2014年、福岡）
 - ・テーマ、報告者等アイデアを募集する。
 - *次の委員会 49期中に実施。20 総学の企画調整を行う。日時・場所は調整
 - *予算 大会後調整
 - ③ 女性研究者問題委員会の体制をめぐって
 - *委員会活性化にむけて再編する。状況に応じて、男性の委員・連絡員も求める。
 - *委員長の任期は2年とする。再任を妨げないが、最長4年が望ましい。
 - *連絡員は、極力アドレスの登録を依頼し、メールでの相談・議論を行えるようにする。

- *役割分担 関東の委員の負担軽減をはかる。ニュース担当の委員を複数化する。
- *委員会活性のために委員、連絡員の増員を図る。全支部に連絡員を登録してもらう。連絡員は女性にかぎらない。大きな支部は委員・連絡員の複数化をはかる。
- *全支部の連絡員登録は、担当常任幹事の河野さんに各支部へ依頼してもらう。
- *20 総学の企画のなかで、特に、九州から委員をだしてもらうよう働きかける。

④ ホームページ編集 意見、投稿を募る。

⑤ 「男女共同参画学協会連絡会」報告

第3回大規模アンケートを実施した。報告書を作成中。

今年のシンポジウム開催予定は以下

日時：2013年10月7日、場所：東洋大学白山キャンパス 125周年記念館

参加費：2000円、学生の聴講無料、懇親会あり（後日、詳細決定）

⑥ 「日本の科学者」シリーズ「ガラスの天井に挑む」掲載経過報告と今後の方針

*2回の論文が大変好評であった。元気づけられたとの感想多い。

*若い女性研究者にも執筆してほしい。

2. 朴木さんの論文の合評（「日本の科学者」2013年2月号54ページ）感想

①「日本の科学者」シリーズ「ガラスの天井に挑む」企画のいきさつと、

「気がついたらここに居た」（朴木佳緒留、Vol.48 No.2、54）の感想

ガラスの天井とは、女性やマイノリティー研究者のキャリアアップを阻む、目に見えない何らかの障害のことです。シリーズ「ガラスの天井に挑む」は、ガラスの天井にぶつかりながらも、めげずに研究・学問・技術への道を切り開いてきた、JSA 女性会員の足跡を文字として残しておきたいとの思いから企画されたものです。企画は主として（故）小森田精子さん（JSA 代表幹事、大阪支部）と石渡が担当しています。第1回は元静岡大学の塩川祥子さんに書いていただき好評でした（Vol.47 No.10, p.42）。

シリーズ第2回の「気がついたらここに居た」は朴木佳緒留さん（神戸大学）からの発信です。4月7日の女性研究者技術者委員会では、この論文をとりあげて合評会をおこないました。以下は感想というより紹介文と言ったほうが適切かもしれません。

旧教育基本法が謳う「男女の教育機会均等」と、女子のみに家庭科教育が課せられていることの矛盾に気がついた朴木さんは、その原因を探るため「家庭科教育成立史」の研究に10年を費やされました。そして「おそろおそろ（ご本人の弁）」ながらも、「男女共学家庭科」を主張されましたが、学会や市民団体などから強い反発をうける時期が長く続きました。ところが、1989年、日本が女性差別撤廃条約を批准したことによって、周囲の状

況は「男女共学家庭科支持」へと一変し、自説を曲げなかった朴木さんの状況も激変しました。「女性施策専門家」として、地方自治体の審議委員への登用や講演依頼など、ひっぱりだこの活躍をされることになったのです。丁度その頃ジェンダーという言葉が知られるようになり、朴木さんの研究は「ジェンダー問題学習論」に向かい、その中で神戸大学の男女共同参画推進室を立ち上げ、同室長となり、さらに神戸大初の女性の学部長・大学院研究科長とされました。今、男性中心の社会の中で多くの問題を感じつつも、女性研究者増を実現するために、周囲の女性をはげましながら奮闘されています。さまざまなご苦労については触れられていませんが、文章からは、公正な社会をつくるため身を挺してガラスの天井を取り除こうとする朴木さんの思いが伝わってきます。(石渡真理子)

②共感しつつ示唆を得る

「気がついたらここに居た」という魅力的なタイトルの論稿を読み、「世間の常識」というものがいかにあてにならないか、そのなかで、ときに「成り行き」に身をまかせながらも柔軟に身を処し、そのことで、結果的に「意志的に」歩むことになった著者の歩みを通しジェンダー平等が「当たり前」になってきた社会の展開が良く理解できた。

著者の言葉でとくに共感したのは、「真剣に悩むとそれに応える人が現れる」ということ、とはいえ著者がこのように歩んでこられた「最大の理由は安定的な職場が『それなりにあった』』としている点である。安定的な職場がなければ、学生にきちんと向き合うことも、悩みに応えてくれる人との出会いも限られる。女性研究者のみならず若い世代の職場の確保への視野も開かれる論稿である。

また神戸大学では、ジェンダーを学ぶ希望者は男子学生のほうが多いという大転換が起きているというが、岡山大学でも同様な現象がみられる。その背後には男子学生のアイデンティティへの不安や、男子であっても就職できないかもしれないという将来への不安があるとの指摘もなされた。今の社会や学生の現状をどう把握するかという点でも、示唆的な論稿である。(沢山美果子)

③元気をもらった合評会

「気がついたらここに居た」を取り上げた今回の合評会は、委員会での初めての試みとして、とてもよかったですと感じました。女性をとりまく「ガラスの天井に挑む」シリーズの執筆者としてまさに適任の朴木さん、ご本人から「気がついたらここに居た」では書けなかったことのお話もうかがえたことが特に有意義でした。

ジェンダー論の実践として自ら管理職として道を切り開かれたその歩みは、後進の人たちにどんなに大きな勇気と希望を与えるものになっているに違いないと思量いたします。元気をいただいた合評会でした。ありがとうございました。(金子幸代)

3. その他 連絡

「北海道女性研究者の会」No. 68 (2012. 11. 30) 科学者会議全国事務所にあり。(北海道支部連絡員落合さんから寄贈)

4. 20 総学議題募集

来年の 2014 年、福岡で開催予定の 20 総学で、女性研究者・技術者問題で討議すべき内容を広く募集します。男性を含み、特に若い方々の経験や疑問、問題提起を！意見は日本科学者会議女性研究者技術者委員会が管理する女性研究者・技術者の交流の場 zenkoku@jsa.gr.jp または、委員会委員もしくは連絡員へお願いいたします。(委員、連絡員の皆さまは、意見の募集にご協力ください)

<訃報> 小森田精子さん

日本科学者会議代表委員で、大阪支部幹事、女性研究者・技術者委員会の担当常任幹事等を歴任、女性研究者・技術者シンポジウムにもご尽力いただいた、小森田精子さんが、逝去されました。前日まで精力的に活動しておられ、真に突然のご逝去でした。残念です。心からご冥福をお祈りいたします。